

児童生徒の言葉の力を育むために

濱千代 いづみ

キーワード 言葉の力 語彙力 言語教材 情報

はじめに

本稿の目的は、第一に児童生徒が言葉の力を得ていくために教師ができることは何かを考察して示し、第二にその考察を基盤にして国語科教育を学修する者（以下、学修者）に実践した講義内容を報告することである。

児童生徒の「生きる力」を育むためには児童生徒の言葉の力を育むことが国語科担当者の責務である。言葉の力を育むことを話題にするとときに使われる「言葉の力」や「語彙力」という語句は、使用者や使用場面で意味範囲にずれを生じている。これらの語句の意味範囲を整理した上で、言葉の力を育むために提出されてきた意見を振り返りながら、今後教師にできることを提示する。

筆者は、中学校・高等学校の国語科教員免許状を取得するための科目を担当している。中学校・高等学校の授業で言語教材を扱う場合、時間の制約もあり、知識の整理と練習問題による確認で終了することが多い。中学校・高等学校の生徒に言語生活を振り返り、言語事象を見つめる場を設け、言葉の背景に学習が広がるような授業が構想できるのが望ましい¹⁾。そのような活動を取り入れた授業構想を言語教材「和語・漢語・外来語」を利用して学修者に課した²⁾。社会情勢により遠隔授業を余儀なくされたが、Web会議システムを利用して講義し、資料の配信に努め、学修者に主体的な学修を促した。学修者は資料を熟読し、情報の中から和語・漢語・外来語を収集して正しく分類し、分類結果から情報の特色をつかんだ。そして、この体験に基づいて授業を構想し、中学校・高等学校の生徒が何につまずき、どのような指導が必要かを想定した。この講義内容を過程に従い紹介して述べる。

1 「言葉の力」「語彙力」という語句の意味

1-1 「言葉の力」の意味

本稿の題目に「言葉の力を育む」というフレーズがある。児童生徒の言葉を運用する能力を伸ばすという意味で用いた。「言葉の力」という語句のみに注目すると、「言葉を運用する能力」ということになる。

ところで、「言葉の力」という語句は使用者によって意味範囲にずれが生じている。その一つに、「言葉の持つ力＝行動や心に与える影響、言霊」という捉え方がある。例を挙げる。以下、引用の傍線は筆者が付したものである。

- ・世代を超えた多くの人々の心に深く突き刺さり、あるいは語りかけ、気づきや新たな思いを抱かせる「言葉の力」が存在している。(愛甲修子ほか2018)

東京書籍の国語科教科書「新しい国語」では、「国語科で育む資質・能力」を「言葉の力」として分かりやすく提示したという（東京書籍HP³¹）。本来、資質とは生まれつきの性質や才能をいい、能力とは成し遂げる力をいう。「資質・能力を育む」という句を児童生徒が現在持っている力を一層伸ばす意味で使用している。例を『あたらしいこくご』一下の最初と最後の教材で見る。

- ・教材「サラダで げんき」（最初の教材）

《教材の前後に》ことばの力 だれが どんな ことを したかを たしかめる
《教材の後に》おはなしを よむ ときは、だれが どんな ことを したかを
たしかめながら よみましょう。

- ・教材「一年かんを ふりかえろう」（最後の教材）

《教材の前後に》ことばの力 かいた 文しょうを よみかえす
《教材の後に》文しょうを かいたら、字や ことばの まちがいが ないか、
よみかえして たしかめるように しましょう。

東京書籍の国語科教科書における「言葉の力」は単元、あるいは教材の学習到達目標ということができるものであり、しばしば「つける力」という言い方をしているものである。

本稿で用いる「言葉の力」は「言葉の持つ力＝行動や心に与える影響」という意味ではなく、東京書籍の「国語科で育む資質・能力」「単元、あるいは教材の学習到達目標」というような意味の広がりはない。コミュニケーションにおいて、記録において「言葉を運用する能力」のことを指している。

1-2 「語彙力」の意味

「言葉の力を育む」ということで、はじめに頭に浮かぶのは語彙力をつけるということである。この語彙力という語は日常よく目にするし耳にするが、表している範囲が人

によって異なるようである。

そこでまず、「語彙力」を日本で最大の国語辞典である『日本国語大辞典 第二版』(小学館)で調べた。「語彙」という見出しはあるが、「語彙力」という見出しはない。

次に、CiNii Articles (日本の論文を検索できるサイト)で題名に「語彙力」とつく論文を検索した。最古のものは、村石昭三・斎藤佐和・菅野正年1971「障害児723 対をなす動詞に関する語彙力調査：聴覚障害児の場合」(日本教育心理学会総会発表論文集13)である。この論文題目にある「語彙力」は語彙をどれだけ獲得しているかという能力を指している。

第三に、『現代日本語書き言葉均衡コーパス』(BCCWJ)(現代日本語の書き言葉の全体像を把握するために構築したコーパス、1億430万語のデータ)で「語彙力」を検索したところ、英語の学習に関する書物3件、広報誌での体験報告1件、Yahoo!知恵袋5件があがった。

・Section II (四十問／二十五分)では、レポートや論文の作成に不可欠な文法力を試し、Section III (五十問／五十五分)では、正確に長文を読む力と語彙力を試される。(尾島昭次監修2001『アメリカ看護留学への道』南山堂、この部分の著者は佐藤隆美)

・語彙力がない人間は、自分の感情を言葉でうまく表現できず、暴力に訴えるしかないわけですから・・・ (「Yahoo!知恵袋」Yahoo!2005)

「語彙力」を、英語の学習に関する書物では言葉をどれだけ知っているかという知識の意味で使用し、Yahoo!知恵袋では知識の意味に加えて言葉をいかに使いこなせるかという技能の意味でも使用している。

現在の「語彙力」という語が表す意味は2つある。

「どれだけ多くの言葉を知っているか」(＝知識)

「どれだけ言葉を使いこなせるか」(＝技能)＝運用能力

「語彙力」という語は知識を指して使うことも、知識と運用能力とをあわせて指して使うこともある。

1-3 題目の「言葉の力」

本稿の題目で用いた「言葉の力」は「言葉の持つ力＝行動や心に与える影響」という意味ではない。また、東京書籍の「国語科で育む資質・能力」「単元、あるいは教材の学習到達目標」というような意味の広がりはない。「語彙力」という語との関係では、広義の「語彙力」に等しい。児童生徒の理解語彙を増やし、コミュニケーションにおい

て、記録において「言葉を運用する能力」のことを指している。「考えていること、思っていることを言葉で表せる能力、言葉に置き換える能力」「受け手に伝わる言葉を選ぶ能力、適切な言葉を見つける能力」のレベルで捉えている。「辞書にある原義から派生した意味を対話の場でとらえる能力、意味がわからなければ確認する勇気」くらいまでは範囲と考えるが、「内容を分析し考えるというような思考する能力、判断する能力」まで広げては捉えていない。

2 言葉の力を育む提言

ここでは言葉の力を育むために提出されてきた意見や調査結果をたどり、今後教師にできることを整理して提示する。

2-1 国語科は言語運用の能力を育成する

北原保雄1985は国語科で育成すべき能力を国語力とするなら、それは言語運用の能力であるとして、その育成について次のように述べた。

国語力を定義して、国語を的確に理解し国語によって適切にまた効果的に表現する能力である、とすると、これは要するに言語運用の能力のことである。それでは、言語運用の能力はどのようにして養うことができるか。それは、第一に実際に運用することを通して養われるであろう。(中略)しかし、運用の演練だけでは、運用の能力は確かなものにはならない。言語についての知識にささえられてはじめて、その運用は確かなものになる。(中略)言語の具体的な運用は、運用する能力によって可能になる。しかし一方、運用する能力は具体的な一回一回の運用の積み重ねによって養われる。具体的な運用の繰り返しによって創造的運用能力は高められる。創造的運用能力は、また言語についての知識によって一層確かなものになる。ただ、知識そのものは既成のものであって、運用されなければ生きてこない。知識が具体的な運用に生かされれば、それはすでに能力である。言語の教育においてはこういう関係にある「具体的な運用」と「運用能力」と「知識」との三つを十分に認識して、言語についての創造的運用能力を養うようにすることが肝要である。

一回一回の「具体的な運用」によって「運用能力」は高められる、創造的「運用能力」は「知識」によって確かなものになる、「知識」は運用されなければ生きてこない、というように、「知識」「具体的な運用」「運用能力」の相互の関係を捉えている。知識獲

得を重視していた時期に運用能力を養うことを提言した。

2-2 言語教材の扱い方

言語教材をどの範囲で捉えるのかについても「言葉の力」と同じように人によって違いがある。ここでは、例えば中学校の国語教科書に1時間か2時間で扱うように設定しである「意味の似ている言葉」や「共通語と方言」などを指して用いることにする。このような言語教材について、言葉に関わる知識を蓄え、言葉を運用する力をつけるためには、教師が教材の扱い方を工夫するとよいという提言がなされている。

金子守2010は「日本語の特質を追究する単元学習」を展開するうえでの指針や留意点をまとめて次のように示している。

- 1 知識の整理と確認のための反復練習だけの学習にしないこと
- 2 自らの言語生活を振り返り、現実の言語事象を見つめ、考え、そこからことばの法則性に気付かせたり、問題点を発見させたりして、それを課題として追究する学習を展開すること
- 3 ことばや表現の背景にある、人間・自然・社会あるいは歴史、伝統や文化にまで学習が広がっていくようなテーマをできるだけ設定し、豊かで広がりのある学習を展開すること
- 4 語や語句の学習をただ意味や用法などを理解する学習と位置付けるだけでなく、これをさらに語彙・表現の学習にまで広げ、発展していくような学習を組織すること
- 5 辞書を引いてもわからないような、例えば、類義表現などを取り上げ、表現の根底に流れている表現者の言語心理を追究し、微妙な使い分けについて考え、日本人の言語表現についての理解と認識を深めること
- 6 それぞれの単元の学習を通して、課題解決の方法、つまり、学び方を学ばせること
- 7 単元の学習にふさわしい「場」を設定し、高めたい能力、付けたい能力を明確にすること

実践の具体例の報告は割愛するが、上記の指針や留意点で特に「6 それぞれの単元の学習を通して、課題解決の方法、学び方を学ばせること」が重要と考える。授業での学びを授業の外で生かすには児童生徒が「学び方を学ぶ」べきである。1時間か2時間で学び終わるように計画すると、知識の整理と理解で時間切れになる。練習問題に解答するだけでは発見にまで行き着かない。しかし、すべての言語教材に4時間、5時間の

時間をかける余裕はない。年間の指導計画をたてるときに、時間をかけて取り組む言語教材を選び出し、上記の2にある「自らの言語生活を振り返り、現実の言語事象を見つめ、考え、そこからことばの法則性に気付かせたり、問題点を発見させたりして、それを課題として追究する学習を展開する」活動を行うことを望む。

2-3 小学校国語科で指導すべき語彙

河内昭浩2021は小学校国語科教科書の語彙と、他教科の教科書の語彙とを比較・分析し、他教科の教科書の中から、国語科で指導すべき語彙を抽出して提示した。各教科の専門語をより深く理解するために必要な語彙として「学習語⁴⁾」を設定し、「学習語を指導の対象とすることで、他教科の学びの資することができるとともに、子どもの言語生活を豊かにすることができる考える」と述べている。河内昭浩2021では学習語の語彙の選別が十分ではなく一層進める必要がある。しかし、国語科だけでは他教科の学習に必要な語彙の獲得が不十分であることがわかり、一応学習語が示されたので、各教科の学習の際に定着をはかることができる。

2-4 言葉の力を育むために

浜本純逸2008は国語学力を経年で考察して述べる中で、言葉の力を育むための実践的な方法に触れている。その方法を3点に整えると次のようになる。

- ・児童生徒が主体的に活動しようとするように自己表現する場を設定する。表現活動（口頭発表、作文、本づくり、新聞づくり等）を可能なかぎり多く取り入れる。
- ・学びの場における教師は、知識の伝達者から知識や概念との出会いのデザイナーになり、学びの援助者となり、協同学習の組織者となる。
- ・児童生徒が知識を学ぶだけでなく、課題発見・学習計画・収集などの「学力」と、比べる・分類する・名づけるなどの「方法知」とを身につける学習を仕組む。

児童生徒が言葉の力を得てゆくためには、言葉に関わる知識を蓄え、言葉を用いる力を身につけ、学習する方法を身につける必要がある。それでは、児童生徒の言葉の力を育むために教師にできることは何かということについて、以下に考えるところをまとめて述べる。

○児童生徒が言葉に関わる知識を蓄えるために

- ・「学習語」の視점에立ち、国語科で定着させる語彙を選ぶ意識を持つ。

○児童生徒が言葉を用いる力を身につけ、学習する方法を身につけるために

- ・年間の指導計画をたてるときに、複数時間かける言語教材を選び出し、児童生徒が現実の言語事象を見つめ考え、言葉の法則性に気付き、問題点を発見して、追究する学習を立案する。
- ・表現活動を多く取り入れることで児童生徒が主体的に取り組む場を設定する。
- ・比べる・分類する・名づけるなどの分析方法を身につける過程を学習に組み込む。
- ・「振り返り」による内省で児童生徒がステップアップする場を設定する。

3 言語教材の授業構想に関わる講義

ここでは、2の考察を基盤にして国語科教育を学修する者を対象に行った講義内容を過程に従い(1)～(5)の5段階に整理して記述する。

(1) 教材分析

中学校3年生を対象に設定した言語教材「和語・漢語・外来語」を提示し、教材分析を指示した。

【学修者への指示内容】

教材「和語・漢語・外来語」は論理的に思考したり、読解したりという活動をするものではありません。

授業者は、第一に学習者が日本語の語種に関わる事項を知識として獲得できるようにします。次に、語種の相違がもたらす語感（印象）を捉え、適切な言葉を選び出すことができるように指導します。

次のことをしてください。

- ①教材の説明を基にして、不足する情報を補い、和語・漢語・外来語等の相違を整理してください。

例、漢語では和語に漢字をあてて音読みした語という情報を補うことができます。

例、漢語には二字熟語が多いという情報を補うことができます。

- ②和語・漢語・外来語等に適当な例をそれぞれ5語以上準備し、説明や覚書をつけてください。

例、外来語の「イクラ」はロシア語起源であるという覚書をつけることができます。

例、「竹林」のように表記だけでは語種が決まらない語は説明か覚書が必要です。

- ③「和語・漢語・外来語を使いこなそう」についても言い換えの例を3語準備し、説明や覚書をつけてください。

例、オンデマンド 動画配信の意味で使うが、本来は利用者の要望に応じて供給する意味であるという説明が要ります。

(2) 教材の語彙の現状把握

河内昭浩2016「和語・漢語・外来語の指導」を読むことで教材の語彙の現状を把握するように指示した。論文はwebで公開されているものを利用した。

【学修者への指示内容】

河内昭浩2016「和語・漢語・外来語の指導」を読み、次の点を報告してください。

- ①第2節で、中学校国語教科書における「和語・漢語・外来語」単元の語彙調査から見えてきた問題点を100字前後でまとめなさい。
- ②第4節で、読後に気づいたこと、あるいは印象に残ったことなどを100字前後で書きなさい。

(3) 事例収集と発表

筆者が作成した講義動画を視聴し、情報の中から「和語・漢語・外来語」を収集し、整理した結果を報告するように指示した。この活動の最終的な目的は、学修者自らが事例収集を行うことで、学修者が将来教壇に立ったときに指導上どのような留意を要するかを予想してもらうことである。その結果は(5)で述べる。

講義動画の内容は2部構成になっている。第1部では萬俣好明・岩間久美子2000を利用して情報の中から「和語・漢語・外来語」を収集する活動を含む授業構想を紹介した。第2部では寺田寅彦「備忘録」の一部を情報源として漢語を抽出し和語に言い換える例と、文部省唱歌(第6学年)「我は海の子」を情報源として和語・漢語・外来語を抽出し、整理した結果を説明する例を示した。歌詞を情報源に例示したので、石井宏美・虫明眞砂子2011による小学生の歌唱共通教材に対する印象調査の結果と、小林雄一郎・天笠美咲・鈴木崇史2015による流行歌の歌詞の分析結果とを補足した。

【学修者への指示内容】

- ①講義動画を視聴してください。
- ②今回のレポート：情報の中から「和語・漢語・外来語」を収集し整理すること

○対象となる情報は、新聞、雑誌、文学作品、教科書、歌詞など

和語・漢語・外来語を取り出す作業があるので、150字～200字くらいが妥当な量。
たとえば、朝日新聞の天声人語は600字ほどある。天声人語を対象にするなら、範囲を決める。雑誌や文学作品を使う場合も同様。

○行うこと

- ・和語・漢語・外来語を抽出し、語数を計算する。
- ・漢語を和語に換えたり、外来語を漢語に換えたりする。

- ・結果を考察する。

③レポートに基づき発表し交流します。

(4) 指導案の作成と模擬授業の実践

言語教材「和語・漢語・外来語」の学習指導案の作成を指示した。学修者は作成した学習指導案による模擬授業を実践した。

【学修者への指示内容】

教材「和語・漢語・外来語」の学習指導案を作成します。

指導計画は下記のような全4時間とします。第2次の活動はグループにより、第3次の活動は各グループが順に発表し、全体で交流する形態をとります。第2次以降の活動を見通して、第1次1時の学習指導案を作成してください。

対面授業で、この指導案を利用し、模擬授業を行います。

第1次1時

教材「和語・漢語・外来語」を読み、それぞれの特徴をとらえ、理解を深める。

第2次2～3時

文章の中から和語・漢語・外来語を抽出し、使用状況を整理する。

文章の性格と関係させて使用状況を分析し、考察する。

第3次4時

使用状況の整理、分析、考察の結果を発表し、交流する。

(5) 学修者による振り返り

(3) では学修者自身が情報の中から「和語・漢語・外来語」を収集し、整理した結果を報告するという活動を行った。そのような言語活動を現場で行う場合の学習効果、予想されるつまずき、必要な支援等をまとめるように指示した。

【学修者への指示内容】

教材「和語・漢語・外来語」の授業について、次の質問に（ ）の字数で教えてください。

- ①中学校3年生が事例収集を行う場合、どのような学習効果があると考えますか。(100字程度)
- ②中学校3年生が事例収集を行う場合、どのようなつまずきが予想され、どのような支援が必要だと考えますか。(100字程度)
- ③模擬授業を通じて、自身が学んだことを整理し述べてください。(150字まで)

上記の指示に対する①②の回答の中で、多数の回答があったものを簡条書きでまとめると次のようである。

①学習効果

- ・生徒が自分で情報を選び、新しい知の発見があるので、言葉に対する興味を持つことができ、積極的に授業に参加できる。
- ・情報内容と語彙使用の関係を実体験の中で知ること日本語に対する理解が深まり、言葉の楽しさに気付くことができる。
- ・教師から生徒への一方的な授業よりも印象に残る。
- ・生徒が自分で言葉の意味や読み方を調べることで、新しい知識を身につけるとともに、その調べ方を身につけることができる。
- ・相手や場面、伝えたい内容に合わせて語種や語感を使い分けるとの大切さを、具体的に認識することができる。

②予想されるつまずきと必要な支援

「つまずき」

- ・和語・漢語・外来語を正しく判別することが難しいため正確な収集結果が得られない可能性がある。音訓の混在する漢字表記では漢語と見誤りやすく、混種語と判別するのが難しい。音読み・訓読みの区別が難しい生徒にとっては、和語・漢語を見分けることが困難である。
- ・文節の区切り方や単語の区切り方に迷う。
- ・事例収集に適した資料を探すことが出来ない場合がある。

「支援」

- ・事例収集前に言語知識を確認し、語種の分類の観点を指示し指導する。事例収集中も語種の分類の観点を確認する。
- ・事例収集前に資料の紹介を行う。事例収集が開始されてからも指導する。
- ・全員に対する具体的に丁寧な説明、つまずいている生徒への手掛かりの支援を行う。

学修者は情報からの事例収集という言語活動に関して、積極的に学びに向かう姿勢、知識の獲得、方法の獲得、学習の楽しさなどの学習効果を認めている。学修者が予想する「つまずき」としては和語・漢語・外来語の判別、単位区切りが極めて多く、次に対象資料を探すことが多い。これに対応して「支援」も挙がっている。学修者は活動の中で自身が「つまずき」を体験することで児童生徒の「つまずき」を想定し必要な「支援」を考えた。

おわりに

児童生徒が言葉の力を得てゆくためには、言葉に関わる知識を蓄え、言葉運用する力を身につけ、学習する方法を身につける必要がある。児童生徒の言葉の力を育むために教師にできることは何かということについて、考察するところを以下のように述べた。

○児童生徒が言葉に関わる知識を蓄えるために

- ・「学習語」の視点に立ち、国語科で定着させる語彙を選ぶ意識を持つ。

○児童生徒が言葉運用する力を身につけ、学習する方法を身につけるために

- ・年間の指導計画をたてるときに、複数時間かける言語教材を選び出し、児童生徒が現実の言語事象を見つめ考え、言葉の法則性に気付き、問題点を発見して、追究する学習を立案する。
- ・表現活動を多く取り入れることで児童生徒が主体的に取り組む場を設定する。
- ・比べる・分類する・名づけるなどの分析方法を身につける過程を学習に組み込む。
- ・「振り返り」による内省で児童生徒がステップアップする場を設定する。

その考察を基盤にして、中学校3年生を対象に設定した言語教材「和語・漢語・外来語」を用いて、国語科教育の学修者に実践した講義内容を報告した。講義過程は(1)教材分析、(2)教材の語彙の現状把握、(3)事例収集と発表、(4)指導案の作成と模擬授業の実践、(5)学修者による振り返りである。学修者は活動の学習効果を認めつつ、自身が「つまずき」を体験することで児童生徒の「つまずき」を想定し必要な「支援」を考えた。

学修者が多くの新しい資料を読み、自ら体験することで知識や指導技術を獲得していく講義を継続したいと考える。

〈注〉

- 1) 金子守2010で日本語の特質を追究する単元学習を展開する上での指針、留意点がまとめられている。米田猛・萩中奈穂美2014でオノマトペを扱った単元開発が報告されている。
- 2) 言語教材「和語・漢語・外来語」は各社の教科書教材を参考にして新たに作成したものを提示した。
- 3) <https://ten.tokyo-shoseki.co.jp/text/shou/kokugo/introduction/page04.html>
2021年10月20日閲覧
- 4) バトラー後藤2011(『学習言語とは何か 教科学習に必要な言語能力』三省堂)は、教科学習で使われる語彙を「一般語」「専門語」「学習語」の3つに分類している。こ

の分類に拠る。

〈参考文献〉

- 愛甲修子・菅俊輔・川嶋正志2018「『言葉の力』を実感し合う学習指導：言葉を通して「生きる力」を育む学び合い（1年次）（主題研究：国語科）」『研究紀要 東京学芸大学附属小金井中学校』54
- 秋田喜代美 代表2020『あたらしいこくご』一下 東京書籍
- 石井宏美・虫明眞砂子2011「小学校の音楽科における歌唱共通教材のあり方について」『岡山大学教師教育開発センター紀要』1
- 金子守2010「第三章 四 日本語の特質を追究する単元学習」『国語単元学習の創造 I 理論編』日本国語教育学会編 東洋館出版
- 河内昭浩2016「和語・漢語・外来語の指導」『群馬大学教育学部紀要 人文・社会科学編』65
- 河内昭浩2021「小学校教科書語彙の研究」『群馬大学共同教育学部紀要 人文・社会科学編』70
- 北原保雄1985「言語教育のあり方」『応用言語学講座 1 日本語の教育』林四郎編 明治書院
- 小林雄一郎・天笠美咲・鈴木崇史2015「語彙指標を用いた流行歌の歌詞の通時的分析」『じんもんこん2015論文集』
- 米田猛・萩中奈穂美2014「中学校国語科における言語単元の開発研究（2）」『富山大学人間発達科学部紀要』9(1)
- 浜本純逸2008「国語学力をどのように考えてきた」『早稲田大学国語教育研究』28
- 萬俣好明・岩間久美子2000「情報活用能力を育てる国語教育のあり方」『神奈川県立教育センター研究集録』19